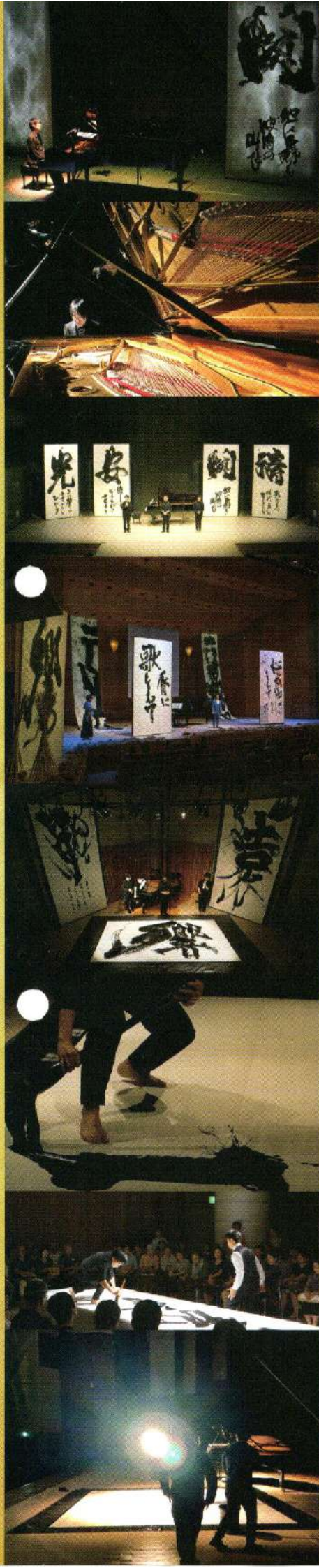




音楽と書の共演 音と言葉の間

OTO TO KOTOBA NO AIDA

クラシック音楽と書道のパフォーマンスが
生み出す新感覚舞台芸術

栃木
公演

2023年8月6日(日)

13:00開場 13:30開演

とちぎ岩下の新生姜ホール

(栃木文化会館)

栃木県栃木市旭町12-16

一般 ¥3,000 (当日¥3,500)

ペアチケット ¥5,000 (前売りのみ)

大学生 ¥1,000

高校生以下無料(要整理券)

整理券は以下のQRコードからお申し込みください
未就学児入場可

オンラインチケット&高校生以下無料整理券
購入QRコード



プレイガイド

とちぎ岩下の新生姜ホール (栃木文化会館) Tel:0282-23-5678

小山市立文化センター Tel:0285-22-9552

佐野市文化会館 Tel:0283-24-7211

曲目

ドビュッシー:「沈める寺」

清水チャートリー:《セルフ・ポートレート》(委嘱作品)

ムソルグスキー:《展覧会の絵》より「キエフの大きな門」

ワーグナー: 歌劇『タンホイザー』より「夕星の歌」

ほか

お問い合わせ

ototo.kotobano.aida@gmail.com

主催: 音と言葉の間実行委員会 協力: 株式会社アライ音楽企画



音楽と書の共演

音と言葉の間

舞台芸術の最先端、2年ぶりの栃木公演。

2017年から活動している「音と言葉の間」が目指しているのは、音楽をかたちに残すこと。そして、書の生まれる瞬間を時間芸術として表現することです。歌・ピアノ・書が、互いに影響を与えつつ、ひとつの舞台表現を作り上げていきます。会場では、表現者の息遣いや墨の香りとともに新たなアートが生まれる瞬間を体感いただけます。

2023年公演は、近年舞台メディアアーティストとしてオペラやバレエなどのクラシックはもとよりKpopやCMの世界で活躍する荒井雄貴が、プロジェクションマッピングの技術を利用し、『光』という新たな要素を用いて、さらに一歩進んだ『音と言葉の間』の世界の創造に挑戦します。



荒井 雄貴 (Yuki Arai)

バリトン歌手／舞台メディアクリエイター

東京音楽大学声楽科卒、同大学院修士課程修了。イタリア国立バルマ音楽院を卒業演奏において最高得点を得て修了。ヨーロッパを中心とした演奏家としての経験を基礎に新たな舞台表現を追求する。新国立劇場など日本の主要な劇場でプロジェクションマッピング、舞台映像投影、字幕翻訳・投影、舞台美術を担当するほか、Youtube等メディアプロデュースするなど、さまざまな映像技術をクラシック音楽の世界に取り入れる舞台メディアアーティストとしての活動が注目されている。



新野見 卓也 (Takuya Niinomi)

ピアニスト／音楽評論家

国際基督教大学 (ICU) 人文科学科卒業、一橋大学大学院言語社会研究科修了後、ハンガリー国立リスト音楽院、同大学院を修了。現在、ハンガリー国立ダンスアカデミー専属バレエピアニスト。リサイタル等の演奏活動のほか、『レコード芸術』『音楽の友』各誌や、NHKウェブサイト等へ寄稿するなど執筆活動を行っている。2022年、ワーグナーのピアノ作品を収めたCD『Schmachtend』をリリース。



小杉 卓 (Taku Kosugi)

書家

国際基督教大学 (ICU) アーツ・サイエンス学科卒業。祖母の書道教室で書をはじめ、これまでに茅島貫堂、鶴見和夫の各氏に師事。2017年から2018年にパリでの制作活動を経て帰国。現在は鎌倉で「書の教室」を主宰。書を多角的な観点で解釈した作品を制作する中で、音楽家をはじめとするさまざまなアートとコラボレーションを行う。個展やデザイン提供のほか、企業CMへの出演やライブパフォーマンスを幅広く手掛ける。



東京公演 開催決定!!

東京ワークショップ公演 (2023年8月1日) の情報は右のQRコードより

